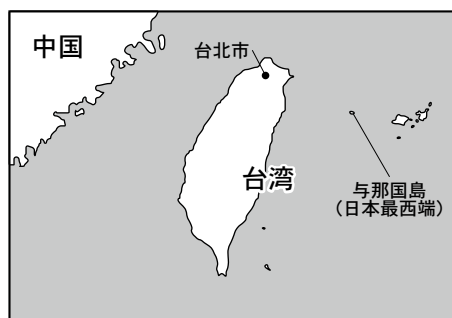


美浦中学校 二年生が 台北市立敦化中学校を訪問



今年で23回目をむかえる「美浦少年のつばさ事業」は、海外の同世代の人々との交流を通じ、国際感覚を備えた美浦村の将来を担っていく人材の育成を目的に、美浦村人材育成推進協議会が毎年行っている事業です。

今年7月29日から8月3日までの計6日間、訪問団が台湾を訪れました。団員募集の際には、美浦中学校2年生139名中21名の応募があり、抽選により16名の団員が決定しました。

団員の皆さんは、普段の生活との違いに戸惑い、言葉の壁にぶつかりながらも、台北市立敦化中学校の生徒との交流を通じてかけがえのない台湾の友人ができました。また、台湾の伝統と文化を身近に体験した6日間でした。

◇引率者 《敬称略》

- 団長 中島 栄(美浦村長)
- 畑山 尚弘(美浦中学校教頭)
- 瀬尾 卓也(美浦中学校教諭)
- 磯西 治子(美浦中学校講師)
- 木村 光之(役場企画財政課)
- 元井 絹代(語学教師・通訳)



訪問団団長
美浦村長 中島 栄

今回で23回目となった「美浦少年のつばさ事業」に、団長として参加させていただきました。美浦中生16名と引率者6名の総勢22名で結成された訪問団は、台北市立敦化中学校の皆さんとの交流を中心に有意義な6日間を過ごしてまいりました。

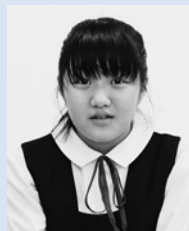
今年で3回目となった敦化中との交流は、スムーズかつ充実したものとなりました。両中学校の子どもたちは、始めは緊張や戸惑いがありましたがすぐに打ち解け、互いを理解しようとする英語や台湾語、漢字を駆使し、そして最後はジェスチャーで気持ちを伝える姿を見て、この子たちの未来を垣間見た気がしました。また、台湾の伝統文化や人々に直接触れることができた美浦中生たちは一段と成長し、今後の学校生活や人生の中で、より国際的な思考を持つてくれることでしょう。

最後に、トラブルもなく全員無事に帰国できたことは団長として一番の喜びであり、参加された美浦中生および引率者各位をはじめ、保護者の皆さま、関係各位に感謝申し上げます。



小平 萌香
(2-A)

私は、少年のつばさ事業に参加してわかったことがあります。それは、言葉の壁を超えて友情が芽生えるということです。敦化中学校に初めて行ったとき、向こうの人の話し声を聞いて内容がさっぱり分からず言葉の壁を体感しました。交流は難しそうだなと思っていたところにひとりの子が英語で話しかけてくれました。私は習った英語で返したら、意味が通じました。さっきまで言葉の壁を感じていた子に意味が通じたと思うと本当に嬉しいです。そして、別れるころにはすっかり仲良くなりました。今回の経験で言葉の壁は友情に負けました。



若林 愛花
(2-D)

私が敦化中学校と交流して感じたことは、国が違ってても言葉が違ってても、国境を越えて仲良くなるんだなと思いました。最初はとても緊張して、仲良くなるか心配だったけれど、敦化中学校の人達はとても優しくフレンドリーで、すぐに友達になれました。敦化中生と過ごした日々は、私にとっても楽しい思い出です。

台湾の文化については、台湾の食べ物やナイトマーケットなど、とても日本とは違ってびっくりしました。少年のつばさのメンバーでいった台湾は、私にとっても良い思い出になりました。

「少年のつばさ」で台湾へ行ってきました。2日目と3日目は台湾の敦化中学校の生徒と交流してきました。敦化中の生徒はとても僕達を歓迎してくれ、ダンスを披露してくれたり手作りのプレゼントをくれたりしました。僕達も美浦村と美浦中学校の様子を発表しました。4日目・5日目は台湾の有名な観光名所に行きました。



宗 像 智也
(2-A)

今回「少年のつばさ」に参加し異国の文化や風習、そこに住む人々と触れ、交流する事の大切さを知りました。敦化中の人達が美浦中に来てくれたら僕も同じようにもてなしをしたいと思います。

僕は、敦化中学校の生徒と交流して強く感じた事があります。それは、僕達ととても仲を深めようとしていた事です。



伊能 充
(2-A)

交流会当日は、少し硬い雰囲気でしたが、時間がたつにつれて柔らかい雰囲気になっていきました。それは敦化中学校の生徒が少しずつ話しかけてくれたからだだと思います。ゲームやダンス、夕食などで交流をし、そのおかげで笑いが出てきました。初めて会うのにとっても積極的に声をかけてくれて嬉しかったです。僕も見習って、色々な事に積極的に取り組んでいこうと思いました。貴重な経験をありがとうございました。



濱谷 佳奈
(2-C)

私は、少年のつばさで学んだ事が2つあります。

1つ目は敦化中学校の生徒さんとの交流で、英語と台湾語がたくさん使えた事です。それに、敦化中の皆さんが私たちに学校の文化などをていねいに教えてくれました。また、ジェスチャーなどで通じ合うことができました。

2つ目は、協力し合う事を学びました。敦化中学校の人たちと二人組でダンスをする創作ダンスやカンフーを学びました。とても楽しかったです。

この6日間を通して私は色々な事を学びました。このようなことを今後に生かしたいです。



小山 優奈
(2-D)

私が敦化中学生と交流して感じたことは、国が違っててもすぐに打ち解けて仲良くなることができるということです。

最初は言葉も全然通じないのでとても緊張しましたが、言葉の壁を越えてたった2日間で強い絆で結ばれることができました。でも、そのぶん別れが辛かったです。

外国の人と友達になり、交流するというとても貴重な経験ができて良かったです。

台湾の文化は、日本と違うところがたくさんありました。身の回りのことも少し違っていたりして少し驚きました。また台湾に行きたいです。



僕は、少年のつばさ訪問団として台湾の敦化中学校の生徒と2日間交流しました。

敦化中の生徒の皆さんは親しみやすい人ばかりでいろいろ話しかけてくれるのですが、はじめは緊張して話すことができませんでした。簡単な台湾語は習っていたのですが、会話はできないので英語が中心で会話しました。なかなか自分の言いたい事が話せませんでした。敦化中の生徒は英語がすごく上手で、その上に日本語も話せるのでレベルの違いを感じました。6日間の研修で経験したことは、これからの自分に役に立つと思います。



宮本佳汰 (2-C)

今回の台湾研修で行った敦化中学校との交流では、コミュニケーションや表現力の大切さを改めて感じる事ができました。言葉が通じない中で交流するのは、とても難しいです。だからこそ分かった事もありました。更にそこから文化にもふれて

いきました。台湾は美浦と違い、森林がとても多いです。そして、交通路も整備されているため、車の多さに驚きました。しかし、その中でも車同士でゆずり合う礼儀を知ることができました。そこで感じた台湾の人の人を思いやる気持ちを見習い、自分を成長させていきたいと思います。



小林一誠 (2-B)



木口愛莉子 (2-D)

私は、台湾に行った中で、思ったこと学んだことがあります。特に心に残ったのは友情です。言葉が通じないというのがあるけど、敦化中の子が話しかけてくれました。英語やジェスチャーなどを使って文化や食に関する事、自己紹介などをお互いにしました。それをやっているうちに仲良くなれたので、友情は国内も国外も関係ないし、言葉は通じないけど伝えようとする気持ちが大切という事が学べました。交流以外にも台湾内見学、研修をして、日本との文化の違いなど、色々なことを学びました。また、台湾の人は優しくかったです。



宮崎俊正 (2-B)

僕は、この少年のつばさに参加できて本当によかったです。1日目は台北101を見学しました。そこでは、上から台北を見た時すごく感動しました。2日目は、敦化中学校の人達と交流しました。敦化中学校との交流では、ダンスを見せてくれました。その後、交流が深まるゲームをして、すごく楽しい2日目になり、3日目も敦化中学校の人達と交流し、すごく楽しい日を送ることができました。そして、4日目、5日目と過ぎていくうちに、本当にこれは地域の人、家族、役場の人、そして村長さんのおかげだと改めて実感しました。



宮崎早希 (2-A)

私は、台湾に行って思った二つのことがあります。一つ目は、敦化中学校の生徒たちとの交流です。最初は友達になれるかなとかいろいろと心配だったけれど、交流をやっているとだんだん敦化中の人たちが話しかけてくれたので、とても安心しました。二つ目は、台湾の文化です。私が台湾に行って思ったことは、多くの文化に分かれていることです。いろいろな所に研修で行ったらしい文化があって、とてもいい思い出になりました。このメンバーで行って、とてもよかったです。



道場菜緒 (2-A)

私は、台湾に行って学んだことがたくさんあります。敦化中学校の人たちと交流した時にはタッチ&ペアゲームをしました。その時は、言葉が通じなくても敦化中学校の生徒から来てくれて嬉しかったです。台湾内の見学で、台北101に行きました。夜の台湾の景色は日本で見ただことのない衛兵交代を行っていてとても驚きました。また、どこの見学場所に行っても人の数が大変多くて驚きました。台湾の電車に乗ったことも一つの思い出です。このことから、日本と台湾の文化の違いについてよく分かりました。

私は、7月29日から台湾へ行き、台湾の文化に触れたり台湾の学校と交流をしてきました。

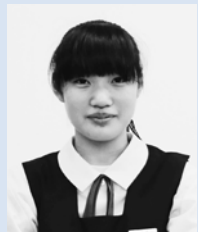
台湾で一番楽しかったことは、敦化中学校の生徒と交流をしたことでした。台湾のおいしい食べ物を食べるのが一番じゃなかったのが、自分でびっくりしました。でも、それほど敦化中学生はいい人ばかりで、言葉が分からなくてもスマホを使ってなんとか話そうとしてくれ、私はとてもうれしくて感動しました。文化では、千と千尋の神隠しのモデルになった古い建物にとっても感動しました。まるで、千尋になった気分ですごくぞくしました。



三浦桃香 (2-D)

私は、台湾に行って台湾と日本の良さを知ることができました。台湾の人達は日本語を話せる人が多くて、とてもよく接してくれました。台湾は日本に友好的だと聞いていましたが本当に友好的だと感じました。台湾に行って、改めて日本の良さも知ることができて良かったです。

敦化中と交流して、言葉が通じなかったり文化の違いでいろいろと戸惑うことがたくさんありましたが、英語で話したり台湾語と日本語を教え合い、自分の思いを相手に伝えることができました。この度は貴重な体験ができて良かったと思います。ありがとうございました。



中村和佳夏 (2-B)



小林賢太 (2-C)

僕は少年のつばさに参加して本当に良かったと思いました。その中でも一番思い出深いのは、台湾の敦化中との交流です。初めはお互いに言葉も違うのでなかなか話すことができませんでした。2日目は朝から敦化中生と一緒に、グループ行動や食事共にしました。2日目はお互いが最後なので、たくさん頑張って話しました。そして、楽しい時間は早く過ぎてしまい、別れの時がきました。バスが敦化中に着くと「やだー」と言う人もいました。そして、一人一人と握手をして別れました。ずっと泣いている生徒もいて、とても感極まる別れでした。



内野美結 (2-D)

私は、今回の少年のつばさに参加して思ったことが二つあります。一つ目は、敦化中学校の人達がとても優しくかったです。私は最初、敦化中学校の人達とうまく交流できるかととても心配でした。しかし、敦化中生は私達にとっても積極的に話しかけてくれて、言葉が通じなくても、ジェスチャーや絵などで書いてくれて、言葉の壁を超えることができました。二つ目は、台湾の人達は、日本のことがとても好きということです。店員さんなどが日本語で話しかけてくれたので、とても嬉しかったです。